

生き神様が参拝者の背中をまたぐ奇祭
梶並神社の当人祭

指定区分	県指定重要無形民俗文化財
読みかた	かじなみじんじゃのとうにんさい
所在地	美作市梶並
指定年月日	昭和39年1月16日
解説	毎年10月第1土曜日に行われる梶並八幡神社の秋祭り行事。氏子の中から選ばれた「当人様」が、一定期間の精進潔斎の生活を続け、祭日の「宮上り」を迎える。参道にひれ伏した参拝者の背中を衣冠装束に袴を着用した“当人(とうにん)様”(生き神様)がまたいで通る。またがれた人は無病息災、願望成就の御利益があると言われている。
アクセス方法	中国自動車道美作ICから約30分
公開状況	10月第1土曜日、梶並神社
設備	
備考	

きつずページ

していくぶん (指定区分)	県指定重要無形民俗文化財
ぶんかざいめい (文化財名)	梶並神社の当人祭
よみかた	かじなみじんじゃのとうにんさい
しょざいち (所在地)	美作市梶並
していつひ (指定した日)	昭和39年1月16日
せつめい	毎年(まいとし)、生きた神さまとして「当人様」(とうにんさま)が選ばれます。当人様はおよそ1週間(しゅうかん)、毎朝(まいあさ)水をかぶって身(み)を清(きよ)め、神社(じんじゃ)にお参(まい)りします。祭(まつ)りの日はお参りに来た人たちは土下座(どげざ)をして当人様に背中(せなか)をまたいでもらいます。またがれた人はその年は健康(けんこう)で、願(ねが)いごとがかなうといわれています。